

## [シンポジウム 1]

## 土生玄碩に関する文献集作成にあたり

奥沢 康正

京都市

江戸期を通じて最も著名な眼科医として名を遺した人物を挙げるとすれば、まず第一は土生玄碩と言って過言ではない。その理由は広島に片田舎の一開業医から江戸城の御典医に上りつめながらシーボルト事件（国禁の徳川家御紋服贈与）に連座したことで、改易、全ての肩書を剥奪、財産を没収の上、永年入牢したという著しく毀誉褒貶の激しい壮絶な人生が人の心を揺さぶるからであろう。玄碩は先人の眼科医中、実地の臨床医として最も抜きん出た新しい医療技術（特に白内障手術）を駆使して治療したのみならず、関東以北と北陸に住する多数の門下生を養成し、没後多くの話題を遺した医人として、史料・文献に残る人物でもある。

土生玄碩の人物像について明治期以降の記載はまず富士川游は「日本医史学雑誌」明治27年（1894・29歳時）1月を皮切りに「中外医事新報」332号、明治30年（1897・32歳時）2月・「芸備」第9号、大正2年（1913・48歳時）4月・「刀圭新報」4/8、大正4年（1915・50歳時）9月・「中外医事新報」852号、昭和4年（1929・64歳時）・「飽薇」5/1に“土生玄碩先生の頭骨”の5論文を、河本重次郎（東大眼科教授）・小川劍三郎・山賀勇・福島義一・中泉行正ほかの諸氏は眼科諸雑誌、特に明治・大正・昭和初期の「日本眼科学雑誌」・「実験眼科雑誌」・「中央眼科雑誌」などに多数の史料・考察・論文を載せている。さらに、第二次世界大戦後になると土生玄碩を題材とした小説、演劇シナリオなど単著数冊が出版される。

さて、大正4年に土生玄碩生誕150年の叙勲に際し、小川劍三郎はその記念の会を催すべきことを提議した。そして小川の奔走で同年9月26日に、「土生玄碩の従四位贈呈位報告の祝典」を兼ねて盛典がとり行われた。当日は東京大学法医学教室講堂において諸家医師の演説があり、別室では玄碩及び其の一統に属する門人たちの著書、遺墨、当時の医療器具、江戸期の眼科に関する書籍、写真・門人帳などの史料が展示された。その眼科資料及び生誕150年及び叙勲祝賀典記念の目録は500部のみの刊行であったが、現在も史実に基いた信頼のおける小冊子となっている。稀本のため本日、広島で開催される日本医史学会総会の参加者の方々にCDとして配布させていただきたい。御希望の方は当日演者奥沢康正に御申出ください。なお眼科領域の医史学としての小川劍三郎は眼科臨床学・近世眼科学・眼科診断学・光光学などの著書出版だけでなく医史学の単著「日本眼科小史」・「銀海奇勝」・「刀圭閉話」・「医術と迷信」など、さらに実験眼科雑誌にも土生玄碩についての論考・眼科史をしばしば投稿されている。しかし、残念ながら小川氏の貴重な蒐集原史料の全ては大正12年の関東大震災により灰燼と帰したため、土生玄碩の人物像は現在では投稿された眼科諸雑誌の史料および論文報告から窺い知るのみである。今回、機会を与えていただいたので明治期以降の眼科諸雑誌に載る土生玄碩に関する文献一覧表を作成、河本重次郎ほかの眼科医による文献記載中の重要事項について述べてみたい。

## 土生玄碩・玄豊に関する「実験眼科雑誌」に収録されている文献名を以下採録

著者名	表題	巻・号(出版年)	ページ～P.または眼科史料番号
小川劍三郎	文明史上眼科医の地位の変遷	実眼2(1919)	45・110・173・245・301・355
小川劍三郎	土生玄豊と田原養全(肖像)	実眼3(1920)	441
石原 忍	土生家蔵書寄付	実眼15(1932)	608
小川劍三郎	土生玄碩獄中の取り扱い	実眼13(1930)	眼科史料番号14
	シーボルト一件風聞	実眼1(1918)	45
	シーボルトに関する逸話	実眼2(1919)	92
	土生文書	実眼4(1921)	181
土生玄碩言行遺聞(榎本徹之助氏談)		実眼4(1921)	185
	シーボルトと医の極意	実眼6(1923)	222
	徳川幕府の眼科医	実眼6(1923)	226・227・223
	獄中の玄碩火事に会う	実眼6(1923)	229
	シーボルト日記抄	実眼8(1925)	
	土生玄碩への申渡書	実眼9(1926)	
	シーボルト江戸参府日記	実眼10(1927)	349
	土生玄碩死去の風説	実眼10(1927)	356
	土生玄碩と紅絹の切れ	実眼12(1929)	457
	シーボルトの土産	実眼12(1931)縦横縦録	37
小川劍三郎	土生玄碩先生の事蹟	中眼7, 201(1913)・眼臨10,113	
河本重次郎	土生玄碩先生百五十年祭	日眼19, 1102(1915)	
土生玄碩先生百五十年祭, 和蘭の称の由来シーボルトの事, 眼科新書		眼臨11, 68, 174, 247(1916)	
河本重次郎	土生玄碩に就いて	中眼18, 1183・眼臨22, 207(1926)	
河本重次郎	土生玄碩の後	中眼19・351・眼臨22, 474(1926)	
河本重次郎	土生家蔵書の中より	中眼19・674・1252・眼臨22, 569, 23,313(1926)	
河本重次郎	土生家蔵書の中より	中眼20, 118(1928), 眼臨23, 378	
河本重次郎	再び土生玄碩の事について(リュウブの瞳孔散大試験の1826年4月25日也)	日眼32, 附83, 眼臨24, 51, 中眼20, 1171(以上1928)	
河本重次郎	土生氏蔵書	日眼33, 附25, 眼臨24,619(以上1929)	
土生 敦	土生玄碩先生の話	中眼28, 329, 眼臨31,328(以上1935)	
伊東弥恵治	土生敦君を悼む	総合眼科雑誌36, 176	